

〈學術著作集ライブラリー〉

Oikawa Heiji

大正・昭和の教師たちに覚醒を促し、大正新教育という巨大なうねりを巻き起こした、独学の教育実践家・及川平治に関するはじめての著作集！

及川平治著作集

全5巻

解説 橋本美保(東京学芸大学教授)



新教育ノ幕ヲ開カン、凡テノ人ノタメニ
凡テノ子供等ノ為ニ、私ノ凡テヲ捨テ、

(及川平治)

限定120セット

発行=学術出版会

発売=日本図書センター

戦後の「生活単元学習」の先駆的実験ともいえるカリキュラムを実践し、生活に即した題材から児童の心を喚起して、問題解決の方法を自ら編み出させた「生活教育」は、今日もなお、その輝きを失っていない。

【本著作集について】

- 1 大正期の新教育運動の指導者として「分団式動的教育法」を提唱・実践し、教師や教育関係者に多大な影響を与えた及川平治の著作を集成・復刻。
- 2 代表的著作『分団式動的教育法』『分団式各科動的教育法』をはじめ、新教育運動を提唱した「八大教育主張講演会」で及川が講演した「動的教育論」。学校教育の現場で用いられた「習慣態度の試行的測定目標」「尋常一学年知能検査指針」まで、現在では入手困難な資料をも収録！
- 3 第5巻には、橋本美保(東京学芸大学教授)による及川平治の生涯とその著作についての解説を収録。

※分団式教育法 児童一人ひとりの必要に応じて、「斉教育」「分団教育」「個別教育」を組み合わせた授業方法。いわゆる「習熟度別学習」ではない。及川が児童と向き合う教育の現場で生み出された。

内容見本

動的教育論

一序言

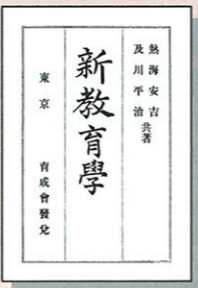
私がこの動的教育論を研究してより既に十五年になるのであります。一番始めに分団式動的教育法の著述をしてから既に十年になるのであります。でありますから「いろはの」の「う」の字の教へ方を如何にすべきか、「に」を足せば「二」になることを如何にして授けべきかと云ふ微細のことまで動學観より研究して居るのであります。併し乍ら今日はさう云ふことを申上げるのではありません。私は歐洲戦争のあつた後に教育の改造と云ふことを考へて動的教育を始めたのであります。併し今日の實際教育の問題——生活即教育論、爲すことに因て學ぶ論、學習動機論、分團的個別的取扱論、本能衝動的醇化論、題材の自由創造論等は皆動學観を中心として彈轉して居る様であります。私としては十五年前に主張したこの教育法が今日新思潮として論議せられることを喜ぶと同時に悲しむのであります。それからこの動的教育と他の學說との關係及び批判的教育的

(右) 第4巻収録「動的教育論」(八大教育主張)より(65%縮小)

各巻主要目次

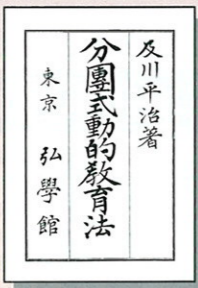
新教育学(熱海安吉・及川平治著 育成会 一九〇三)

- 第一章 序論 / 第二章 教育の目的 / 第三章 教育の区分 / 第四章 教育の方法 / 第五章 小学校
- 如何に国語を教ふ可き乎(育成会 一九〇六)
 - 第一編 国語科教授法 第一章 総論 / 第二章 国語科教授の区分(第一読方の教授、第二文学の教授、第三綴方の教授、第四書方の教授)
 - 第二編 国字国文の将来
- 如何に歴史を教ふ可き乎(育成会 一九〇六)
 - 第一章 序論 / 第二章 目的論 / 第三章 歴史教授の基礎 / 第四章 教材論 / 第五章 方法論
- 如何に地理を教ふ可き乎(育成会 一九〇七)
 - 第一章 序論 / 第二章 目的論 / 第三章 準備教授論概論 / 第四章 教材論 / 第五章 教法論 / 第六章 地理教授の方便物



分団式動的教育法(弘学館 一九二二)

- 第一序論(第一章 三大主張 / 第二章 分団式教育法の意義)
- 第二本論(第一編 教育の動的見地 / 第二編 児童の能力不同てふ事実の見地 / 第三編 学習法の訓練の見地)
- 第三取論(第一章 分団式動的教育の課業案 / 第二章 再び三大主張の關係を論ず)



分団式各科動的教育法(弘学館 一九二五)

- 第一序論(第二章 環境と有機体 / 第三章 過程の意義、人類の生活過程 / 第三章 動學観と静學観 / 第四章 動的教育学の組織)
- 第二本論(第一編 総論 / 第二編 各論)
- 第三取論(第一章 社会生活の標型としての学校 / 第二章 静的学校の生産物と動的学校の生産物)

及川平治 略年譜

※年齢は数え年

明治八(一八七五)年	(一八歳)	三月一八日、宮城県栗原郡若柳村に生まれる。
明治二五(一八九二)年	(二八歳)	四月、大目尋常小学校の準指導(代用教員)となる。
明治三〇(一八九七年)	(三三歳)	四月、宮城県尋常師範学校附属小学校訓導となる。
明治三三(一九〇〇)年	(三六歳)	宮城県名取郡茂ヶ崎尋常高等小学校訓導兼校長に抜擢される。
明治三五(一九〇二)年	(三八歳)	一〇月、小学校長を辞して上京、東京市本所尋常高等小学校訓導となる。
明治三八(一九〇五年)	(三一歳)	文部省中等教員検定試験に合格。
明治四〇(一九〇七年)	(三三歳)	九月、兵庫県明石女子師範附属小学校主事となる。
大正元(一九一二年)	(三八歳)	「分団式動的教育法」を東京弘学館より出版。この頃から明石附属小学校への全国からの参観者が急増、年間一万人に。県内外からも講師として招聘される。
大正四(一九一五年)	(四一歳)	「分団式各科動的教育法」を東京弘学館より出版。
大正九(一九二〇)年	(四六歳)	「動的教育学要領」を国民教育会より出版。
大正一〇(一九二一年)	(四七歳)	八月一〜八日、大日本学術協会主催の「八大教育主張講演会」で、「動的教育論」を講演。
大正一一(一九二二年)	(四八歳)	「動的教育論」を内外出版より出版。
大正一二(一九二三年)	(四九歳)	二月四日、文部省より欧米各国の教育視察を命ぜられる。
大正一三(一九二四年)	(五〇歳)	三月一日、神戸港から欧米教育視察に出発。アメリカ、カナダ、イギリス、フランス、ドイツなど九ヶ国を巡察。
大正一四(一九二五年)	(五一歳)	七月五日、神戸港に帰朝。欧米教育の視察によりカリキュラム改造の必要性を痛感し、新カリキュラム論を提唱する。
大正一五(一九二六年)	(五二歳)	一二月、明石女子師範附属小学校において「カリキュラム改造全国講習会」を開催。
昭和四(一九二九年)	(五五歳)	三月、明石女子師範附属小学校・幼稚園の主事を依願免職となり帰郷。
昭和一一(一九三六年)	(六二歳)	四月、渋谷仙台市長の要請により、仙台市教育研究所長に就任。
昭和二三(一九三八年)	(六四歳)	一〇月二三日、脳溢血で倒れ、病臥につく。
昭和一一四(一九三九年)	(六五歳)	一月一日、死去。

第4巻

- 分団式動的教育法講義要項(滋賀県蒲生郡教育会 一九二七)
 - 第一動學観 / 第二発生の研究の例解 / 第三教育法の新定義 / 第四教材論 / 第五動的教育学の組織 / 第六学習動機論 / 第七評価統御の輔導上に於ける教師の準備 / 第八題材の自力構造 / 第九輔導の形としての分団式教育
- 動的教育学要領(国民教育会 一九二〇)
 - 第一動學観 / 第二教育法の新定義 / 第三教材論 / 第四動的教育学の組織 / 第五学習動機論 / 第六評価統御の輔導上に於ける教師の準備 / 第七生活過程の二様相を重視したる自学法 / 第八輔導の形としての分団式教育
- 動的教育論(八大教育主張)(大日本学術協会編・刊 一九二二)
 - 一序言 / 二静的教育と動的教育との比較 / 三学習の定義 / 四教材、課程教科書論 / 五教育の目的方法の定義

第5巻

- 動的教育論(内外教育叢書 第四巻)(内外出版 一九二三)
 - 第一章 発生的討究 / 第二章 既成哲学と教育 / 第三章 哲学の機能 / 第四章 科学の機能 / 第五章 世界観人生観と教育の真義 / 第六章 教育の根本精神 / 第七章 学習と教材との關係 / 第八章 学習動機論 / 第九章 題材の機能構造論 / 第十章 動的教育の批評に就て
- 尋常一学年知能検査指針(弘学館 一九二九)
 - 習慣態度の試行的測定目標(弘学館 一九二九)
 - 郷土化せる手工カリキュラムの構成(郷土化の図画手工)
 - (学校美術協会編 学校美術協会出版部 一九三二)
 - 一 教育的郷土の意義 / 二 カリキュラムの意義 / 三 郷土の実情と手工カリキュラムの構成 / 四 手工科教案例
 - 算術中心生活単位の教科案(厚生閣 一九三七)
 - 第一編 算術の趣意 / 第二編 算術中心生活単位の原理 / 第三編 教科案の使用法
- 解説(橋本美保・略年譜)



第3巻

第2巻

第1巻

及川平治著作集 全5巻

- 定価 99,750 円 (本体 95,000 円+税) ISBN978-4-284-10376-3
- 解説 橋本美保 (東京学芸大学教授)
- 体裁 A5 判・上製・個函・セット函入・総約 2,700 頁
- 収録内容

2012 年 10 月刊行

- 第1巻 新教育学(熱海安吉・及川平治著 育成会 1903年)
如何に国語を教ふ可き乎(育成会 1906年)
如何に歴史を教ふ可き乎(育成会 1906年)
如何に地理を教ふ可き乎(育成会 1907年)
- 第2巻 分団式動的教育法(弘学館 1912年)
- 第3巻 分団式各科動的教育法(弘学館 1915年)
- 第4巻 分団式動的教育法講義要項
(滋賀県蒲生郡教育会 1917年)
動的教育学要領(国民教育会 1920年)

- 第5巻 動的教育論(八大教育主張)(大日本学術協会編・刊 1921年)
動的教育論(内外教育叢書 第4巻)(内外出版 1923年)
尋常一学年知能検査指針(弘学館 1929年)
習慣態度の試行的測定目標(弘学館 1929年)
郷土化せる手工カリキュラムの構成(郷土化の図画手工)
(学校美術協会編 学校美術協会出版部 1931年)
算術中心生活単位の教科案(厚生閣 1937年)
解説・略年譜

【おすすめ先】 大学・公共図書館、教育学・教育史・教育思想史の研究者／教育センター資料室など

好評既刊

谷本富著作集 全6巻



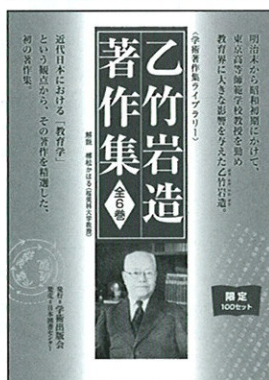
- 定価 99,750 円 (本体 95,000 円+税) ISBN978-4-284-10345-9
- 体裁 A5 判・上製・総約 3,100 頁
- 解説 竹中暉雄 (桃山学院大学)
- 刊行 2011 年 10 月
- 収録内容
 - 第1巻 科学的教育学講義(六盟館 1895年)
 - 第2巻 将来の教育学(六盟館 1898年)
 - 第3巻 系統的新教育学綱要(六盟館 1907年)
 - 第4巻 潔き立派な最後
(大阪毎日新聞 1912年9月17日)
道徳革新論(大学講義全集 第一集)
(大日本図書 1915年)
 - 第5巻 最新教育学大全 上巻(同文館 1923年)
 - 第6巻 最新教育学大全 下巻(同文館 1923年)
解説・略年譜

長田新著作集 全7巻



- 定価 98,700 円 (本体 94,000 円+税) ISBN978-4-284-10337-4
- 体裁 A5 判・上製・総約 3,000 頁
- 監修 長田五郎 (横浜市立大学名誉教授)
- 解説 鈴木由美子 (広島大学教授)
- 刊行 2011 年 9 月
- 収録内容
 - 第1巻 現代教育哲学の根本問題(改造社 1926年)
 - 第2巻 教育活動の本質(同文書院 1936年)
 - 第3巻 最近の教育哲学(岩波書店 1938年)
 - 第4巻 教育哲学—教育学はどこへゆく—
(岩波書店 1959年)
 - 第5巻 ベストロッチー教育学(岩波書店 1934年)
 - 第6巻 ベストロッチー伝 上巻(岩波書店 1951年)
 - 第7巻 ベストロッチー伝 下巻(岩波書店 1952年)
解説／小伝・略年譜

乙竹岩造著作集 全6巻



- 定価 98,700 円 (本体 94,000 円+税) ISBN978-4-284-10220-9
- 体裁 A5 判・上製・総約 2,900 頁
- 解説・年譜 樽松かほる (桜美林大学教授)
- 刊行 2010 年 3 月
- 収録内容
 - 第1巻 欧米教育視察報告十二集
(目黒書店 1908年)
 - 第2・3巻 実験教育学(目黒書店 1908年)
 - 第4巻 軌近教育事実の進歩
(目黒書店 1916年)
 - 第5巻 現代教育学汎論(培風館 1934年)
 - 第6巻 日本教育学の枢軸
(目黒書店 1939年)
解説・略年譜

野口援太郎著作集 全6巻



- 定価 88,200 円 (本体 84,000 円+税) ISBN978-4-284-10182-0
- 体裁 A5 判・上製・総約 2,250 頁
- 解説 石橋哲成 (玉川大学教授)
- 刊行 2009 年 9 月
- 収録内容
 - 第1巻 自由教育と小学校教具(集成社 1921年)
 - 第2巻 新教育の原理としての自然と理性
(聚芳閣 1926年)
 - 第3巻 高等小学校の研究
(帝国教育会出版部 1926年)
 - 第4巻 私の学校(私家版 1930年)
私の教育思想と其実際(木犀会 1935年)
人生と教育の真諦(明治図書 1937年)
 - 第5巻 教育的国史観(明治図書 1937年)
 - 第6巻 先づ教育を革新せよ(平凡社 1938年)
解説・略年譜

〈発行〉

学術出版会

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-8-2
TEL 03-3947-9153 FAX 03-3947-9157
http://www.gaku-jutsu.co.jp
E-mail: info@gaku-jutsu.co.jp

〈発売〉

日本図書センター

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-8-2
TEL 03-3947-9387 FAX 03-3947-1774
http://www.nihontosho.co.jp

取扱書店